



新入生に送るわれら那高生!

☆真・善・美☆

★和歌山県立那賀高等学校★



令和3年度 入学式 式辞より（抜粋）

本校は、来年度にあたる令和4年度にめでたく創立100周年を迎える伝統校です。

教育目標に「自ら学び鍛える那高生」と「地域に貢献する那高生」を掲げ、授業での学び、部活動や学校行事での学び、地域活動やボランティア活動での学びを通して、それぞれが自身の成長を果たしながら、人間形成を行い、進学にしる就職にしる、進路実現を叶えた先に、地域社会に貢献できる人材へと育てて欲しいと願っています。

そのために、次の3つのことをお願いします。

1つ目は、「自分を知ること」です。

これまでの自分自身の歩みを振り返りながら、これから先の自分がどうなるのかを想像してしっかりと自らを鍛えていってください。

2つ目は、「他者とのつながりを持つこと」です。

同年代・同世代のつながりはもちろんですが、世代を超えてつながっていくことで、自らの視野が大きく広がっていきます。高校生として、何を学ぶか、何を鍛えるかの視点を持って取り組んでみてください。

可能ならば、SNSだけではなく、相手と直接コミュニケーションを取っていくことを期待します。

“Try a horse by riding him, and judge a man by living with him.”ということわざがあります。直訳すると、「馬には乗ってみよ、人には添うてみよ!」となります。別な言い方に、

“We understand things through experience.”とも表現されます。

「何事においても経験を通して物事を理解する」というような意味です。

経験を積むことは何よりの財産になります。しかし、経験には失敗はつきものです。願わくば多くの失敗の経験をして、それでも諦めず、挫けず前向きに取り組んでいく姿勢を養ってください。失敗することは誰しも幾つになっても嫌なものです。失敗することから得られる経験は大変貴重です。本校での様々な活動の機会を通して実践していく勇氣を持ってください。また、保護者の皆様には、色々な葛藤があるかと思いますが、どうかその成長の過程を学校や地域の方々とともに見守り、励まし、寄り添っていただきたいと思っています。

そして、3つ目は、「生涯を通じて学ぶ姿勢を身につけること」です。

人生において高等学校の課程は単なる通過点に過ぎないかもしれません。だからといって、高等学校を卒業するための学びは何とも味気ないものになります。ここでの学びを基盤にして、より一層深めていくことにこそ価値があり、それぞれの人生を豊かなものにしていくものだと確信します。本校には普通科と国際科がありますが、いずれの課程であっても、学びに対する貪欲さを身につける期間と捉えて取り組んでいってください。

古代中国の哲学者である孔子の『論語』に

「学びて思はざれば則ち罔（くら）し。思ひて学ばざれば則ち殆（あやふ）し。」という言葉があります。

「学ぶだけで考えなければ、物事の本質を見抜く力が身につかない。それとは逆に、考えるだけで学ばなければ、独断に陥り独りよがりになって危険だ。」というような意味です。

君たちがこれから生きていく社会は、答えのない解を求めていかなければならない社会かもしれません。だからこそ、本校での学びをさらに深め、地域の方々とも協力しながら、将来、輝く星となって地域社会に貢献できる人材に成長されることを切に望みます。

今年度も新型コロナウイルス感染症には、正しく恐れて学校運営を進めていかなければなりません。これまで経験したことのない日々が続いていますが、この機会に、改めて「学校」という存在意義を確かめるとともに、保護者や地域の方々をはじめ、様々な環境が整っているお陰で毎日が過ごせていることに感謝して高校生活を過ごしてください。

令和3年4月9日

和歌山県立那賀高等学校 校長 森 勝博